笈川小学校だより

おいかわ

最終号

令和7年　3月19日発行
文責　校長　前田　　敬

ご卒業おめでとうございます

６年生が登校するのも，残すは卒業証書授与式の１日となりました。

この１年間を振り返ってみますと，６年生は，学校行事や児童会活動，縦割り清掃等，数々の活動を通して，自分達が中心となって活躍することで，自分自身を一回りも二回りも大きく成長させていきました。そして，学校の良きリーダーとしてのあるべき姿を示し，それらを後輩たちへとつないでいくといった責任も立派に果たしてくれました。その彼らがもうすぐ卒業してしまうというのは，甚だ寂しい限りではありますが，中学生になっても，自らの可能性を信じて，さらに努力を積み重ねていってくれることと思います。未来に向かって大きく羽ばたく子ども達の活躍を陰ながらお祈り申し上げます。

また，６年生の保護者の皆様には，長きにわたり，本校の教育活動にご理解とご協力を賜り，誠にありがとうございました。いつも温かく見守っていただいたお陰で，私共教職員も子どもたちと楽しい時間を過ごし，子どもたちからたくさんのことを学ぶことができました。感謝申し上げます。

６年生が６年間通った（通う予定の）授業日数を数えてみると１２０３日でした。残念ながら６年間無欠席の児童はいませんでしたが，１日，２日の児童が３名もいましたので紹介します。（インフルエンザ等の出席停止は除く。）雨の日も雪の日も，６年間本当によく頑張りました。

櫻井　晴さん　欠席1日　　渡部　貴大さん　欠席1日
高橋　葉奈さん　欠席2日　　よく休まず登校できました！

ありがとう６年生!!

３月６日（木），「６年生を送る会」を行いました。６年生に感謝の気持ちを伝えようと，５年生が中心となって計画を立て準備を進めてくれました。当日は，５年生の立派な司会進行で会が進められ，「学校教室当てクイズ」や「障害物リレー」を全校生で楽しんだり，６年生へ下級生から心のこもった手作りのプレゼントを渡したりしました。そして，６年生からは，各学年に対し素敵なお礼の言葉がありました。最後には「ビリーブ」を全校生で歌い，互いの「ありがとう」の気持ちにあふれた素晴らしい送る会になりました。

一人一人が自分の命に責任をもつ～「震災講話」より～

３月１０日（月），「震災講話」として，絵本「つなみ　てんでんこ　はしれ，上へ！」の読み聞かせをしました。「つなみ　てんでんこ」とは，「津波のときには，てんでんばらばらでにげろ」という意味で，**「一人一人が自分の命に責任をもつ＝家族が信頼し合い，しっかりと逃げて命を守り切ることで，一家全滅などという，辛く，悲しい思いをしない」**という願いが込められた言葉だそうです。

読み聞かせ終了後，教室で感想を書いてくれた学年がありましたので少しだけ紹介します。

○　私は「つなみてんでんこ」を聞いて，中学生すごいなと思いました。なぜかと言うと，大変なのに中学生と小学生で手をつないで一生懸命命を守ろうと走って走って走って，冷静に慌てず津波や土砂崩れから逃げてすごいなと思ったからです。もしもこんなふうに自分にも災害が起こったら，このお話をお手本にして本気で命を守ろうと思います。食べ物も毎日の給食を「ありがとう」と思って食べて感謝したいと思います。**（２年　鈴木萌愛）**

○　やっぱり大きな地震が起きたら，地面が割れるし，大きな津波がくると町をのみこんでしまうことが分かりました。だから逃げる時，なるべく水や食料など，生きるために必要なものを準備したいです。地震が起きたら，学校では放送を聞いてその指示に従って，家ではお父さんやお母さんの言うことをちゃんと聞いて行動します。**（２年　坂内昭仁）**

○　本当に大事な時，自分の命は自分で守らないといけないと思った。**（４年　矢部歩望）**

○　自然だから仕方ないと思っていたけど，津波は自分の大切なものや命，家族を失うこわいものだなと思いました。**（４年　渡部　真央）**

○　津波は人の命をなくすので，自分の命は自分で守らなきゃなと思いました。**（４年　佐賀心咲）**

○　主人公が生きていてよかったなと思いました。中学生が「自分の命は自分で守らないと」と危険なときに言っていてすごいと思いました。**（４年　阿部詩織）**

○　明日が，東日本大震災が起きて１４年目になります。さっき聞いたお話もその話をしていました。小学生と中学生が一緒に手を繋いで逃げた時の中学生の優しい声掛けがすごいと思いました。中学生もとっても不安だったのに，小学生が不安にならないように話していて，私もそんな中学生になりたいです。それと，私はすごく強い震災を体験したことがないけど，東日本大震災のことをずっと忘れないです。**（６年　山口莉奈）**

○　私は東日本大地震を経験していませんが，普通に過ごしていても一瞬で自分の大切な家族や家，友達がなくなってしまうということが自分に起きたらと思うと今ある命や物をもっと大事にしなくちゃいけないと思いました。私も絵本に出てきた中学生みたいに，人のためにすぐ行動できるようになりたいと思いました。明日で１４年経ちます。このことを忘れずに生活していきたいです。**（６年　真壁心桜）**

○　東日本大地震からもう１４年がたち，私たちは経験していないけれど，この話を聞いて，自分の身は自分で守るという言葉などが出てきて，本当に命は大切なものということも知りました。地震や津波など恐ろしいことが起きていたんだなと思いました。そして，本の中に出てきた場面で，小学生と中学生が手を繋いで逃げている場面で中学生も大変なのに小学生に優しい言葉をかけられることがすごいと思いました。**（６年　中島可子）**

普段から災害について学び，「どうやったら命を守れるか」を考え，訓練していきたいと思います。